

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520116

研究課題名(和文)美学の社会的使命における持続可能性

研究課題名(英文)On "Sustainability" in the social mission of Aesthetics.

研究代表者

椎原 伸博 (Shiihara, Nobuhiro)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：20276679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、地域社会における文化芸術の実践において、「持続可能性」を意識させる事業に注目し、その新しい価値創造の可能性を考察した。具体的には、主としてアートNPOらによって自主運営されている、さまざまなアートプロジェクトは、地域の様々な問題に対して、創造的な価値による提案を行うことで、より豊かな生活環境を創出する可能性があることを確認した。

このような状況は、美的価値に対し静観的な姿勢を貫くモダニズム的視点だけでは、把握出来ないものであり、日常生活において「持続可能性」の意識の下で、実践していくべき問題でもある。そして、そこに現代社会における「美学」の使命がある。

研究成果の概要(英文)：I focused on the practice to be aware of the "sustainability" in the aesthetic culture in the community, and studied the possibility of the new creative value. And I was confirmed that various Art Projects, by organizing by NPO for Arts, had power to create the rich environment by proposing the creative value against various social problems.

We cannot grasp this problem under the contemplative Modernism to the aesthetic value, and also we have to practice for this problem by making attention to the "sustainability" in our everyday life. And, this is a mission of "Aesthetics" today on this point.

研究分野：美学 芸術学 アートマネジメント

キーワード：持続可能性 日常性の美学 創造都市 アートプロジェクト アートNPO 負の遺産 場の記憶 産業遺産

1. 研究開始当初の背景

平成23年3月11日に発生した、東日本大震災は、美的文化の領域においても、従来の価値観を根本的に考え直す契機となった。研究代表者は、同年に本務校の助成金(実践女子学園教育研究振興基金助成金)により、「大震災以降の新しい感性論の構築に関する研究」を立ち上げ、被災地への調査を行い、現地協力者らとの意見交換を行ってきた。この研究においては、震災の悲惨な状況は、従来の美学が問題にしてきた「崇高」概念等では把握出来ないことが確認され、それを新しい感性の問題で考察することの必要性を痛感した。また、研究にたえず倫理の問題があることも確認され、本研究を着想する要因となった。

2. 研究の目的

東日本大震災は、従来の様々な価値観に対し、根本的な見直しを迫るものであった。それは、美学の領域においても同様であり、本研究はそのような「見直し」の立場から「持続可能性」という問題を抽出し、それを日常生活における「感性的な営み」という視点から再考察することを目的とする。そして、それにより新たに構築されるべき「感性的な価値」が、人間がより良く生きていくことを保証するものであることを明らかにする。

そのためには、人間をとりまく様々な環境に対する、人間の倫理的責任と感性の関係を、今一度明らかにする必要がある。本研究の目的は、それらを総合的に判断し、「美学」という学門の現代的な意義を考察する事にある。

3. 研究の方法

本研究の基本的コンセプトと課題を明確にするために、「物品費」より「持続可能性」に関する基本文献の収集を行う。しかし、本研究の中心は、「旅費」を用いたフィールドワークにある。具体的には、「国内旅費」を積極的に活用して、全国のアートNPOやアートプロジェクトまちづくり、の調査を行う。また「外国旅費」により、ドイツルール地方の「IBAエムシャーパーク事業」や、イタリアシチリア州の調査などで、「持続可能性」の実態調査を行う。それらの調査に基づき、学会

発表や論文等で社会的に発信する。

4. 研究成果

研究初年度(平成24年度)

「国内旅費」を用いて、全国のアートNPOやアートプロジェクト、まちづくりとアートの関係性等を調査した。具体的には、新潟県の越後妻有アートトリエンナーレ、大分県の別府現代芸術フェスティバル、国東半島アートプロジェクト、富山県のアートNPOヒミング、福岡県久留米市のカメラータ城島などである。それらでは、地域において文化芸術の実践を持続的に発展させることが、住民が地域の創造的価値を認識し、それが豊かな生活の基盤となりうることを確認した。

一方、景観の問題に注目し、新潟県中越地震の復興と文化的景観の問題から旧山古志村(現長岡市)歴史的景観の保全という問題から奈良県奈良市を調査した。特に前者は、負の遺産としての景観を住民がどのように活用していくかといった問題を意識させ、それは東日本大震災の復興の問題につながっていることを確認した。「外国旅費」に基づく研究計画では、韓国の光州市とソウル市の文化的実践の調査を行い、創造的価値を有する文化芸術の持続的な活用こそが、様々な都市問題を解決するのに有効であることが確認した。

研究2年度(平成25年度)

「国内旅費」を用いて、全国のアートNPOやアートプロジェクト、まちづくりとアートの関係性等を調査した。具体的には、富山県のアートNPOヒミング、神戸ビエンナーレ、あいちトリエンナーレ2013などである。それらは、地域において文化芸術の実践を持続的に発展させることが、住民が地域の創造的価値を認識し、それが豊かな生活の基盤となりうることを確認した。

一方、エコロジーと現代アートの協働関係の視点から、ドイツのIBAエムシャーパーク事業の調査を行った。そこでは、いわば「負」の遺産ともいべき炭坑の記憶が、都市計画においてどのように保存されているかを中心に調査した。その際、当初現代アートが重要な役割を果たしていたが、現在においては、それよりも都市の創造性に

重点がおかれる傾向が強いことを確認した。

研究3年度(平成26年度)

「外国旅費」を用いて、二度にわたる調査を行った。まず、8月にデンマーク王国からドイツ連邦を中心とする調査では、エコロジーの視点から都市デザインにおける持続可能性の具体的事例を調査した。デンマークのコペンハーゲンでは、自転車を核とする都市交通システムや、デンマークデザインが有する創造性が都市景観に大きく寄与していることを確認した。また、ルイジアナ美術館やオードロップゴ美術館等が有する「創造性」が、都市景観に果たす重要性を調査した。ドイツでは、前年度に引き続きエムシャーパーク事業の調査を行ったが、エコロジーの視点のみならず「創造性」が、持続可能性のある都市文化形成に重要な役割を果たしていることが確認できた。次に、2月にイタリア共和国シチリア州の、大震災以降の都市再開発事業を調査した。この問題は、3.11以降の都市復興プランにおいて、負の記憶とどのように向き合うかという問題を孕んでいる。具体的には、1968年のペリーチェ大震災で崩壊したジペリーナ、ポッジョレアーレの調査を行った。二つの都市とも、震災の被害が大きく旧都市を放棄し、全戸新都市に移転したが、ジペリーナの場合はアーティスト：アルベルト・ブッリの手により「亀裂」というランドアートのようなパブリックアート作品に作り変えられた。一方、旧ポッジョレアーレは廃墟のまま残され、ネクロ・ポリスとしてひっそり都市の記憶を保存している。一方新ジペリーナは、パブリックアートを多用する都市デザインにより、また新ポッジョレアーレは、ポストモダンデザインによって理想的都市計画が実行されたが、現在ではメンテナンスの悪さが目立ち、経年疲労が顕著であり、持続可能性の意識の欠如を露呈している。これらの事柄は、場の記憶を核として都市の美的環境整備が行われるべきであることを示唆しており、それは美学における持続可能性の有効性を考察する場でもある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下

線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

椎原伸博、偽物の木で何が悪いのか?震災モニュメントの可能性について、地域政策研究(高崎経済大学地域政策学会)査読有、16巻3号、2014、81-98、

椎原伸博、大震災モニュメントと記憶 - アルベルト・ブッリ《クレット(亀裂)》を巡って - 地域政策研究(高崎経済大学地域政策学会)査読有、18巻1号、2015

〔学会発表〕(計 2件)

椎原伸博、*What's wrong with Fake Tree? On the possibility of Disaster's monument.* 第19回国際美学会議 19th Jubilee International Congress of Aesthetics、ポーランド共和国クラクフ、ヤギェウォ大学、2013年7月26日

椎原伸博、持続可能性の視点からみた国際美術展覧会 - あいちトリエンナーレ 2013 を中心に -、日本アートマネジメント学会第15回全国大会、九州大学、2013年12月8日

椎原 伸博

〔図書〕(計 1件)

椎原伸博編著、「近代化産業遺産」の「記憶」に関する芸術学的研究、平成25年度実践女子学園教育研究振興基金助成金による研究プロジェクト報告書、2014年3月、75頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

椎原 伸博 (SHIHARA, Nobuhiro)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：20276670